

ホクレン営農支援情報

(2019年12月号)

● 自動航行・自動散布ドローンに大きな期待（ドローン研修会） 《訓子府実証

農場 農産技術課》

11月5日にドローンに関する研修会を訓子府実証農場で開催し、オホーツク・十勝管内をはじめ各地より約70名が参加しました。

座学では、ドローンに関する法令・規制や農薬防除、現場での活用事例などについてホクレン職員より説明しました。また、圃場ではホクサン株式会社によるXAG社のドローン「P20」に関する説明と、自動航行と航行中の障害物回避のデモ飛行、自動散布のデモ飛行を行いました。

参加者からは「畑作場面での活用に期待する」といった感想がありました。



● 将来の水稲新品種候補の圃場調査終了。脱穀後に品質などを調査予定

《バイオ研究センター 畑作物開発課》

ホクレンバイオ研究センターでは、バイオ技術を活用した水稻の品種開発に取り組んでいます。5月に水田へ田植えし、その後穂の出る時期や、穂の数、倒れにくさ等を調査し、9月下旬に収穫しました。収穫した試験材料約5,000株の脱穀を10月から行っています。1株ずつ、種子の取り残しがないよう確認しながら脱穀しています。今後、脱穀した種子の品質や収量性を調査する予定です。



● 留萌地域 GAP 研修会を開催 《留萌支所 営農支援室》

留萌支所営農支援室は、留萌振興局協力のもと10月31日～11月1日にGAP研修会を開催しました。対象は管内の営農指導などに携わる農協や市町村職員等です。

初日の座学では「なぜGAPが必要なのか」「今後はどのような位置づけになっていくのか」「どのような観点で農場管理しなければならないか」といった基本を学び、その後、スライドによる演習を実施しました。翌日は遠別の農業生産法人にて現地研修を行いました。参加者はGAPに対する理解を深めることができました。



●アクティブシニアカフェ in 函館で農業のお仕事を PR 《函館支所 営農支援室》



農業のお仕事紹介をする函館支所の関口技師

北海道社会福祉協議会は、9月26日に65歳以上の高齢者就業の推進を目的として「60代からの働き方ご提案会（アクティブシニアカフェ in 函館）」を開催しました。提案会では高齢者の就労状況や事例が紹介されました。

その中で、函館支所営農支援室は農業分野の仕事内容や管内JAの求人情報を紹介しました。当日の参加者は12名でしたが、そのうち9名が農業分野で求人があることを知らなかったと回答。農業分野の求人情報が一般的には知られていないという課題が明確になり、今後、周知方法に工夫が必要と考えました。

●JA 伊達市管内での2回目のRTKの精度調査を実施 《苫小牧支所 営農支援室》

苫小牧支所では、11月6日にJA伊達市管内5カ所において、JAようてい留寿都基地局からのRTKの精度を調査しました。

今回の調査は7月25日に続く2回目の調査となります。前回の測定において受信状況に影響を及ぼしたと思われる防風林近くでの調査では、樹木が落葉した影響からかRTKフィックス時間が前回よりも大幅に短縮するような傾向がみられました。また、翌日は、JAとまこまい広域の穂別支所エリアにおいてもRTKの精度調査を行いました。



7月25日（左）と11月6日（右）の調査の様子。防風林の葉の茂りに違いがあります。

●「食育と北海道米の幅広い用途」セミナーのご案内 《食品流通研究課》

北海道米販売拡大委員会の主催で、お米に関する上記セミナーが函館で開催されます。当課の飯野職員を含む3名の講師による講演のほか、北海道米3品種の食べ比べ、函館近郊の食材と「ふっくりんこ」を用いた手軽につくれる料理の試食会が予定されています。



昨年のセミナーの様子

参加料は無料です。ぜひお越しください。

【開催日時】 令和元年12月14日（土） 10時30分～14時00分

【開催場所】 フォーポイントバイシェラトン函館 3階 カメリア

（函館市若松町14-10）

【お申込み・お問合せ】 E-mail: t.nishikawa@asahi-agri.co.jp

（「食育と北海道米の幅広い用途」セミナー事務局）

●担い手向け研修会（小麦・豆類）を訓子府で開催します 《営農支援推進課》

ホクレンでは、担い手生産者を対象に「小麦・豆類」をテーマとした研修会を下記のとおりで開催します。訓子府実証農場で実施する 1泊2日の研修は本研修で2回目です。1回目の「ICT等新技術」をテーマとした研修では、基礎知識の習得に加え、受講者同士の活発な交流もみられました。今回も皆さんのご参加をお待ちしています。



7月に実施した研修会の様子

【開催日時】 令和2年1月16日（木）10:20～17日（金）13:50

※1泊2日の合宿研修

【受講場所】 ホクレン訓子府実証農場

（訓子府町字駒里 184 番地 7）

【受講対象】 小麦・豆類を生産する農家後継者

（概ね就農5年以内のUターン、

親元、新規就農者など）



今年新築した宿泊施設。女性専用部屋もあります

【研修内容】 畑作における土づくり、小麦・豆類の生育と栽培管理の基本、小麦の品質評価、小麦・豆類の販売情勢、畑作の病害虫と防除法、畑作地域のスマート農業 など

【参加料】 4,000円（税抜、施設使用料・交流会費用）

【申込方法】 JAを通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ

●アグリポート 22号を発刊 《営農支援推進課》

12月1日にアグリポート 22号を発刊しました。特集は「稲作の未来を切り開く省力化最前線」です。

高齢化や人手不足、1戸当たりの作付面積の増加などにより、北海道農業において省力化は大きなテーマです。その中でも、今回は稲作に注目して省力化技術やそれを実践する生産者の方を紹介しています。水稻を作付けしていない生産者にも参考に

してもらいたい内容です。また、ホクレンマーケット通信では、ホクレン大収穫祭のギフト注文から見える消費者ニーズを考察しています。ぜひ、ご覧ください。



発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp